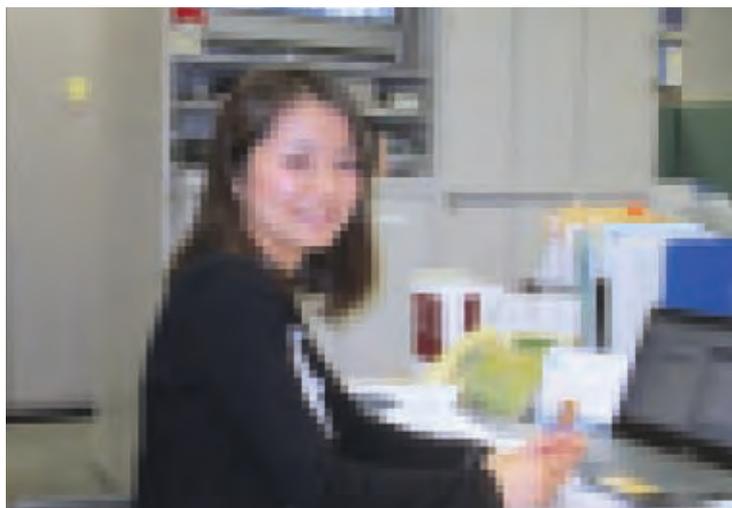


「行政をよくする」行政マンを目指して



関東管区行政評価局茨城行政評価事務所
総務室

松下 絢美 Matsushita Ayami

平成21年4月 総務省採用
行政評価局政策評価官室
平成23年4月 現職

組織を支える仕事も

私は現在、茨城行政評価事務所という出先機関で会計や給与などの事務を担当しています。毎月の資金の中から職員に給与を支払い、必要な物資を調達し、同時に職員の出勤や休暇、福利厚生 of 管理も行うといった、お金と物と人に関する業務全般を担っており、華やかさこそありませんが、国民の税金からなる資源を無駄なく効果的に活用するという重要な役割を持っています。

行政機関は、いかに少ないコストで大きな成果を上げるか（効率性）ということを常に考えなければなりません。例えば一つの制度を周知したいとき、いくら効果が高くても全国でテレビCMを放送したり、職員を10万人動員したりすることは簡単にはできません。成果を上げるだけでなく、そこに投入するコストを意識しなければならないからです。

私は、各課室が限られた予算の中で最大限のパフォーマンスを発揮できるようにするための金庫番でありサポート役として、今日も電卓を叩いています。

所管制度を進化させる仕事も

私は以前、行政機関が自らの政策を評価し、よりよい企画立案につなげる政策評価という制度を所管する部署に所属していました。年に何度も有識者会議を開き、制度の在り方や評価の手法、結果などについて、行政学や経済学など様々な分野の専門家と意見交換を行い、そうした検討を踏まえた政令等の改正やガイドラインの策定も行いました。多様な意見を取り入れることが制度の進化に結実することを実感する貴重な経験となりました。

よりよい行政の実現のために

時代がどんどん変化する中で行政が国民からの信頼を確保するには、常に自らを省み、刷新していく必要があります。総務省は、政策評価制度や、組織や定員の管理、行政の電子化の推進などを通して、行政全体のマネジメント機能を果たしています。国民から見て分かりやすいものではありませんが、信頼に足る組織の維持のためにはこうした機能が必要であり、自分も「行政をよくする」行政マンになりたい！と日々研鑽を積んでいます。